

子どもの自己肯定感を育むための 講演会やパネルディスカッションを開催



子どもの自己肯定感について講演する明橋大二さん

2月4日、やまなみホールで「子どもの自己肯定感を育むための講演会」が行われました。講演会では診療内科医の明橋大二さんが、「子どもの権利条約」を知ることの大切さなどを講演。パネルディスカッションやグループディスカッションも行われ、参加者は子育ての悩みなどについて積極的に意見交換を行いました。

参加者の一人は「子どもの話を聞くことの大切さを改めて感じた。早速実践したい」と話しました。

市民プラザで交流イベント まちとわたしの大交流会 2022 を開催

1月22日、市民プラザで、「まちとわたしの大交流会 2022」が開催されました。

地域で活動する個人や団体が展示やステージ発表を通して交流するイベントで、総勢約250人が参加。出展者と参加者全員で挑む企画「みんなでドミノ」では市民プラザからさまざまな仕掛けを経てゆめタウン「ゆめ広場」までをつなぎ、開始直前にドミノが倒れるなどのハプニングがありながらも無事に成功を収めました。



市民プラザからゆめ広場までつながるドミノの行方を見守る参加者ら

火災から地域の宝を守るため 「文化財防火デー」に消防点検



放水銃の操作を確認する千種太陽禰宜（写真左）

昭和24（1949）年、法隆寺金堂の壁画が焼損したことを教訓に毎年1月26日が「文化財防火デー」と定められています。貴重な文化財が火災により失われることのないよう、柏原八幡宮では、市消防本部の防火指導や防火設備などの点検が実施されました。

千種太陽禰宜は「建物以外にも多くの文化財を預かっている。地域の宝を後世に引き継ぐため、普段から防災意識を高めたい」と話しました。

社会を明るくする運動 長年の協力に感謝

社会を明るくする運動の啓発場所として、10年以上協力を続けている「株式会社タンバンベルグ」に、兵庫県推進委員会委員長から感謝状が贈られました。同社は、社会を明るくする運動強調月間に、リーフレットなどを配布する啓発場所として、ゆめタウン店舗入り口の一面を提供しています。

土井恵介代表取締役は、「地域に貢献できるよう、引き続き取り組んでいきたい」と話しました。



林市長から感謝状を受け取る土井恵介代表取締役（写真左）

3年ぶりに観客を入れて開催 第20打！和太鼓フェスタ“彩響”



和太鼓とスクリーンの演出を交えた演奏に盛り上がる会場

1月15日、ライフピアいちじま大ホールで「第20打！和太鼓フェスタ“彩響”」が開催されました。20回目の開催となる今回は3年ぶりに観客を入れて行われ、全6チーム総勢69名の出演者とともに迫力のある太鼓の響きで盛り上がりました。

来場者は「舞台上で演奏している人が楽しそうで、私たちまでうれしくなった。機会があればまた観たい」と興奮気味に話しました。

北京五輪陸上日本代表小林祐梨子さんを招き 子育てトークイベントを開催

1月21日、丹波の森公苑で、子育て支援ポータルサイトのリニューアルを記念した子育てトークイベントが開催されました。ゲストとしてポータルサイトのアドバイザーである小林祐梨子さんが登場。イベント後半には参加した子どもたちと一緒に、走力トレーニングの道具などを用いた運動を実施し、会場は子どもたちの元気な声であふれていました。

子育て中の親に向け小林さんは「無理をしないことが大事。一緒に子育てを頑張りましょう」と語りかけました。



参加した子どもたちと一緒に運動をする小林祐梨子さん

農の学校 通信

【卒業生の就農状況 編】

農の学校1期生の河手大輔^{だいすけ}さんは、農の学校を卒業後、好物でもあるイチゴの栽培を学ぶため「(株)アグリサポートたんば」で2年間経験を積み、昨年4月から独立就農しました。

農の学校や雇用就農時代に学んだ技術を生かして「よつぼし」「やよいひめ」「さちのか」「おいこベリー」の4種類のイチゴ、約9,300株を栽培しています。「高品質でおいしいイチゴを作りたい」との思いから研究を重ね、光合成を促進する装置やお湯で土の温度を一定に保つ装置を導入するなど、設備を充実させて栽培管理を徹底しています。

今後は直売所への出荷だけでなく、いちご狩りなどの観光農園の開園を予定している河手さん。「お客さんが自分の作ったものを食べて、喜ぶ姿を見るのが楽しみ」と笑顔で語ってくれました。



「環境に配慮した管理を目指しているので、病害虫管理に苦労しています」と話し、1株ずつ丁寧に確認する河手さん